

当社とキー・セイフティー・システムズ社との間の 事業譲渡に係る最終合意について

タカタ株式会社（代表取締役会長兼社長：高田重久、本社：東京都品川区、以下「当社」）と、キー・セイフティー・システムズ社（社長：ユーシン・タン、本社：米ミシガン州、以下「KSS」）は、当社グループが全世界で保有する資産および事業の KSS への譲渡（以下「本取引」）につき最終合意（以下「本最終合意」）に至りました。譲渡価格は総額 15 億 8,800 万米ドル（約 1,750 億円）*となります。

本最終合意は、2017 年 6 月 26 日に公表した基本合意に基づき、KSS が、相安定化硝酸アンモニウム（以下「PSAN」）を使用したエアバッグインフレータの製造および販売に関する一定の資産および事業を除き、当社グループの実質的に全ての資産を取得するとしたものです。当社グループの PSAN 関連事業は、事業譲渡完了後、再編後の当社グループの下で運営されますが、最終的には清算される予定です。当社グループは、引き続き継続的な生産ニーズに合わせ、エアバッグインフレータ改修キットの生産を中断することなく継続していく予定です。

当社代表取締役会長兼社長高田重久は、以下のように述べています。「KSS との間で本最終合意に至ったことを大変嬉しく思います。これは、事業譲渡手続きの完了およびこのプロセスを始める際に定めた目的の達成に向けた重要な一歩です。当社にとっての最優先事項は、お客様に対して、市場措置の対象となっている車両向けの改修キットを含む製品を安定供給すること、および当社の従業員の安定雇用を確保することです。当社は、統合後の事業が全世界に跨がる自動車業界において長期的な成長を遂げていくことを確信しております。」

KSS のユーシン・タン社長は、以下のように述べています。「タカタの事業の買収は、KSS の一世紀にわたる自動車業界への貢献と完全に適合するものであり、統合後においては、全世界のお客様に対して製品を供給するとともに、急速に変化する自動車安全業界に対してより優れた製品やイノベーションをもたらすことが可能となるでしょう。私達は、協調の精神をもって本取引に臨んでおり、今後は、KSS、タカタ双方の役員および従業員が、統合の初期段階から戦略的な統合実施の段階に至るまで、共に重要な役割を担っていくものと考えております。本取引の完了と統合後の新会社の成長へ向けた次のフェーズへと進めることを楽しみにしております。」

当社グループは、当社グループ、KSS および当社の顧客である主要な自動車メーカー間で本取引への協力をコミットした再建支援合意（Restructuring Support Agreement）ならびに米国



における米連邦倒産法第 11 章に基づく再建計画を含む、本取引に係る最終契約等の案の一部を、米国の裁判所に提出済みです。本取引の完了には、日本および米国の裁判所による承認、一定の自動車メーカーとの合意、および政府機関の承認その他一般的なクロージング条件を満たす必要があります。本取引は、2018 年 3 月までに完了する見込みです。

KSS への事業譲渡による売却代金は、米国司法省との司法取引合意に基づく自動車メーカーのための補償基金に係る義務の履行、事業再生に係る管理コストおよび費用、ならびに一般債権者への弁済に充当されます。

当社グループは、引き続き、日本における民事再生手続きおよび米国における連邦倒産法第 11 章に基づく手続きを進め、2018 年 3 月までの本取引の完了を目指して進めると同時に、タカタの欧州、中東、およびアフリカにおけるグループ会社は、本取引の完了まで、健全な財務基盤の下、法的整理手続きを申立てることなく、事業を継続する予定です。

*1.00 米ドル=110.2 円の為替レートに基づきます。

以上